



おやこ通信

第23号



今回は多くのご要望にお応えして「熱性ケイレン」です。2ページの大特集ですよ！

熱性ケイレンとは？

今まで健康に育ってきたお子さん（主に6カ月～5歳くらい）でも、発熱に伴いケイレンを起こすことがあります。約9割は①後遺症などの心配のない**熱性ケイレン**で、日本人では100人に5人くらいの頻度でおこります。ほとんどは一生に1度きりで、2回以上繰り返すお子さんは半数以下です。小学校に上がるまでには自然に起きなくなり、将来の学力とも無関係です。一方、1割のお子さんでは②**てんかん**（=ケイレンを繰り返す病気）が背景にあると考えられます。なお頻度は少ないものの、③**細菌性髄膜炎やウイルス性脳炎など命に関わる病気**のこともあります。

ケイレン（=ひきつけ）の症状

呼んでも反応がない、白目をむく、唇が紫色で大量のヨダレが出る、顔や手足の硬直・ピクツキ、などが典型的な症状です。普通は左右差ありません。多くの場合1～2分以内、長くても5分以内で治まっていきます。ケイレン発作の後、ほとんどのお子さんそのまま自然に眠ります。

ケイレンの様子だけで上記の①・②・③を区別することはできませんが、ケイレンが何十分も続く時は②・③の可能性が少し高まります。

子どもがケイレンを起こした時は、どうすればいい？



【O・・・正しい】

- ・そのまま死んでしまうことは、99.9%ありません！まず落ち着いて救急車を呼びましょう。
- ・安全な場所に寝かせ、吐いたものを吸い込まないように顔を横に向けましょう。
- ・ケイレンの様子（左右対称か、最初にピクつきが始まった部位、続いた時間など）をよく観察し、後で医師に伝えましょう。
- ・ケイレンが治ったら、体温を測りましょう。

【X・・・間違い】

- ・意識をとり戻そうと、体を揺さぶったり大きな声で呼びかける。（刺激となり、かえってケイレンを長引かせます）
- ・口の中に割り箸やスプーンを突っ込む。（歯を折るなど危険が大きい。ケイレンに伴い舌を噛んで多少のケガはあっても、「舌を噛み切って出血多量で死んでしまう」ことは絶対にありません）

病院に来てからの経過

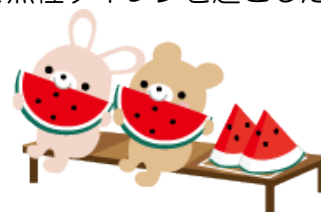
病院に到着した時には、ほとんどのお子さんのケイレンは止まっています。さらなるケイレンを起こしにくくする**ダイアップ座薬**を使うことが多いです。必要に応じ、採血などの検査を行うこともあります。1～2時間眠った後に意識がしっかり回復すれば**細菌性髄膜炎やウイルス性脳炎など命に関わる病気の**可能性は非常に低く、自宅に帰れます。一方、ケイレンが20分以上続いたり、意識の回復が悪ければ、入院して経過を見る場合があります。

この時点で単なる**熱性ケイレン**なのか**てんかん**か？の判断は非常に難しく（逆に、診断に一刻を争うケースは少ない）、ケイレンを今後も繰り返すようなら専門病院で脳波などの検査が必要となります。てんかんと診断されると、多くの場合は抗ケイレン剤服用を指示されます。

熱性ケイレンの予防法について

ダイアップ座薬は脳の興奮を抑え、ケイレンを起こしにくくする薬です。副反応として、眠くなったり転びやすくなったりしますが、影響は1日ほどで消えます。**熱性ケイレン**の予防法として①38℃以上の発熱に気づいた時、②その8時間後、の計2回**ダイアップ座薬**を使う方法があります。ただし『熱性ケイレン自体は繰り返しても脳に悪影響はないと考えられている』、『クスリの作用でボーっとして脳炎などの早期発見が難しくなる』の2点より、発熱の度の**ダイアップ座薬**使用は積極的には勧められていません。よその病院で処方された場合でも「使わないといけない」という類の薬ではないため、使わずに様子を見るのも選択肢の一つです。万が一使わずにケイレンが起きてしまったら、さらなるケイレン予防のため、その時点で使ってください。

とは言え、また夜中に子どもがケイレンを起こしたら・・・と考えると、親は生きた心地がしないでしょう。当科ではご両親の不安が強く御希望があれば、初めて熱性ケイレンを起こしたお子さんにもお守りとして**ダイアップ座薬**を処方しています。



熱性ケイレンを何回も繰り返すお子さん

熱性ケイレンを繰り返すお子さんは、**てんかん**が隠れていないかが問題になります。当科ではてんかんの確定診断はつきませんので、必要に応じ専門病院への紹介状を書きます。一方、発熱に伴うケイレンを繰り返す場合、毎回救急車を呼ぶ必要は無いケースがほとんどです。ケイレンの様子が前回と同じであれば、自宅にある**ダイアップ座薬**を使って翌朝まで待つてよいと考えられます。

細菌性髄膜炎の予防

ちなみに細菌性髄膜炎はワクチンでほとんど予防が可能です。5歳未満のお子さんは是非とも接種をお勧めします。